

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871400149		
法人名	株式会社 向日葵		
事業所名	グループホーム「つどい」 2号館2階		
所在地	茨城県高萩市高萩291番地2		
自己評価作成日	平成21年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立位・歩行訓練を行い筋力低下防止に努め、脳トレーニング等による記憶向上・リハビリ体操でADLの維持向上を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人権を尊重し、安心して家庭的な生活ができる様支援しております		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の人達に気軽に行事に来て頂けるように声掛けをしております。年間行事を通し(芋煮会や生演奏会など)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の慰問や保育園、幼稚園の行事に積極的に参加し地域の人達と交流を深めております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員や家族・地域住民の人達より情報を得ながら、色々な意見に対しては職員間で検討を重ねサービスの質の向上が出来る様に活かしております		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のほかに市内グループホーム連絡協議会を開催しサービスの質の向上に取り組んでいます		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し常に職員が拘束について話し合いをし正しく理解し、心身的、精神的拘束を行わないケアをしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を通し施設では職員間で言葉の暴力が起きないように、常に言葉には注意をしながら職員自体が精神的に落ち着いた心で居られる様に努めています		

茨城県 グループホーム つどい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の講演会や研修の機会がある時は積極的に参加しています。その都度必要な人に活用出来るかを話し合いを行なっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にパンフレットによる説明や契約時に重要事項による記載されている事に対し納得がいく様に十分な説明を行い理解の上明記・押印を受けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族の意見・要望・苦情などは常に謙虚な態度で聞き入れ、フロアー会議・職員会議また苦情処理委員会などの十分な討議を行い運営に反映させている(玄関に意見・苦情箱を設置しており自由に投稿出来る様になっている)		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロアー会議等で意見を出し合い提案を聞く機会を設け運営に反映させています		
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の安全を確保する事を第一に考え勤務体制の工夫や調整を行っています。諸労働条件については自己評価を行いより良い労働環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修会や講習会に積極的に参加し、職員のケアに対するレベルアップに取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡協議会の組織があり、会議の持ち回りにより、相互訪問やお花見等の行事を行い、サービスの質の向上や問題点を出し合い勉強会等に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族の面談等から情報を収集し、本人の要望・欲求を聞きアセスメントを行い、課題を明確にしセンター方式で記録しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や面談等で家族が何に困っているか、何を望んでいるか、何に不安があるのかの情報を収集し、面会に来る機会を多く作り納得のいく介護が出来る様に援助しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の健康状態・生活状態を把握し、どのような社会資源を活用していくかアセスメントして対応出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が今まで経験してきた事や出来る事を活かし、QOLの向上を考慮しお互いに支え合える関係を構築しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付している「ひまわり便り」で入居者様の健康状態等を報告しています、面会時・敬老会や月間行事を含め喜怒哀楽を共有し本人を支えて行く関係を構築しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が面会に来たときは、ゆったりくつろげる場所を提供しています。ホームでは馴染みの場所へドライブに出かけたりして人や場の関係を大切にしています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が日常生活の中でレクリエーション(ゲーム、歌、脳トレなど)を通して協力し合い、かかわり合い支え合う関係を深め孤立しない様に努めています		

茨城県 グループホーム つどい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が他の施設に移った場合には、時々面会に行ったり、本人、家族の経過等を聞いたりして関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の話をよく聞き、希望に沿った支援に努められる様に、職員同士検討を重ね満足した生活を送れる様に工夫しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して、生活習慣や人生観をアセスメントし、入居者様の人権と意志を尊重して、サービスを提供出来る様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活スタイルを把握し、体調や気分など心身状態を考慮に入れ、人らしい生活出来る様に工夫しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の生活環境シートを利用し入居者様がより良く生活をして行く為に、本人・家族・必要な関係者で話し合いケアプラン立ち上げシートを活用し支援しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた介護実践を行い、身体状況・生活状況やADL等も個別の経過記録を記入し、ケアプランの見直しに活用しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の人格や意志・生活リズムを尊重し、自分のペースで生活出来る様に配慮しています。又、家族の希望に添い外泊・外出など自由で制限のない柔軟な支援を行っています		

茨城県 グループホーム つどい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全の面から消防署や警察に協力をお願いしています。その他行事等でボランティアに来ていただいたり、保育園や幼稚園等の行事に参加出来る様にしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回協力病院よりドクターに往診に来て頂いております。その他入居者様の様態を見ながら、主治医や主治医以外の医師に依頼する事が出来る様に支援しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の観察を常に良く行い、看護師に細かく伝える様にし、心身の変化や異常発生時には迅速に対応できる様になっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した時はこまめにお見舞いに伺い、看護師より健康状態を尋ねる様に心がけ、1日も早く退院が出来る様に工夫をしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は職員同士ミーティングを行い家族や医師の意見を聞きながら、家族等と連携をこまめに行い対処しています。又家族に重度化についての書面にて説明を行い了解を得ています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導の下、救命救急や応急手当の訓練を行い、入居者様急変時に対応出来る様に実践力を身に付けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の協力体制の下、昼夜を問わず入居者様が避難出来る様職員間で常に話し合いの場を設けています。又、災害時地域住民をもホームに受け入れる体制も整っています		

茨城県 グループホーム つどい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を損ねることのない言葉かけや対応に心掛けています。全職員に対してオリエンテーション時に個人情報の取り扱いについても説明しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月の献立に入居者様の希望を加え工夫した献立作りをしています。服装も着たい物を選んで頂き、納得されながら暮らせるよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者様の体調に合わせて、自分のペースで落ち着いた生活が出来る様に支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の入居者様には、化粧や場所に応じた身だしなみに気を付けています。美容院にも本人が希望すれば支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好む食べ物を職員と一緒に相談しながら工夫しております 入居者様と一緒に後かたづけ等も行っています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量や・水分量等のチェックを行い記録しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の歯磨きや毎食後の口腔ケアを支援し、就寝前は入れ歯のケアを行い常に口腔の清潔に努めています		

茨城県 グループホーム つどい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は排泄の誘導、声掛けを行い失禁パンツで対応しています。又、夜間は入居者様の状態に合わせてオムツ、失禁パンツで対応し、排泄リズムを把握し適切な援助が出来る様に心がけています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝コップ1杯の牛乳や水分を多めに摂取しています。また食物繊維を含んだ物を多く摂取出来る様に食事の工夫に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に合わせた湯加減や入浴時間に配慮した時間帯を考慮しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝は出来るだけ日光を浴びる様にし、生活にメリハリを付け過ぎていたをいただいております。午前・午後とラジオ体操やリハビリ体操で身体を動かし夜間安眠出来る様に工夫しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や用量を職員の看護師より説明を受け、薬の目的や副作用などを把握しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の状態に合わせて下膳や食器拭き、買い物、床のモップ掛け等個人の得意な事、やりたい事などを活かしお互い協力し合い、生き甲斐を持って生活が送れる様に支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行われる行事等の中で山・川・神社等へのドライブをし、その場所での散策を取り入れている。又、敬老会やクリスマス会等を行い家族の方と共に一緒に過ごす事が出来る機会を設けています		

茨城県 グループホーム つどい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口の現金は本人の状態に応じ管理して頂いております。本人がスーパー等に行ってお金を使える様に支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様が日常的に家族や知人との交流ができるよう、電話や手紙のやり取りを支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居様が安心して暮らせる様な居心地の良い環境作りに努め、ホーム内に季節感を取り入れた手作りカレンダーを作成しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居様が自分の部屋で一人になったり気の合った人と過ごせる様に行事やドライブ等の写真を飾ったりし、落ち着いた雰囲気作りに努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に本人が希望された仏壇やタンス等、使い慣れた道具等を設置し安心して暮らせる場作りに努めています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居様の自立を目指した支援に努め、「できる事」「わかる事」を活かし、目配り・気配りを心がけ、自立した生活が送れる様に工夫しています		